

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 12 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300675		
法人名	有限会社 畠中商事		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	廿日市市福面2丁目8-6 (電話) 0829-56-5775		
自己評価作成日	令和5年12月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300675-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の年齢、介護度が上がっていく中で、「今、この瞬間を楽しむこと」「すぐに忘れても、今が楽しければいい」という気持ちで、一人ひとりの思いや、希望、好きなことなどを取り入れて、ゆっくりと心穏やかに過ごしてもらえるように心がけています。また、病気についても、ご家族の意見を聞き、主治医と相談し、出来る限り希望に沿った支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者と職員が自宅に近い家庭的な環境で、毎日の暮らしを楽しむために様々な工夫を行っている。事業所では、生活の中で利用者から発信される思いや意向を受け止めるために、職員が利用者との時間をかけて関わる勤務体制を整備している。職員間の情報共有は逐次行われており、利用者の心身状態に応じた適切な介助方法を協議している。利用者が感染症に罹患した過去の経験から積極的な外出を控えていたが、それに代わる楽しみとして、職員が利用者の認知能力を考えて手作りした、すごろくと神経衰弱を使用してレクリエーションを実施し、動画を活用した体操を行う等、利用者が日々の生活で笑って過ごす時間を創り出すように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を事務所と台所に掲げスタッフ全員で共有している。	事業所では具体的な目標を設定し、目標を達成する過程で、職員が利用者の生活に楽しみや喜びを創り出すことで理念を実践に繋げる取り組みを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議などで地域の副区長の方や民生委員の方と話し合いや質問などを頂いているが、コロナ禍で会議の中止が続いている。町内清掃や組長など地域の住民の交流には参加している。	ホーム長が運営推進会議の報告書を地域の副区長や民生委員へ手渡すために訪問し、情報交換を行っている。民生委員から果物や花の苗等の差し入れがあり、隣家からも果実を採りに招かれる等の交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナが続き、地域の方との交流がなくなっていたが、認知症について質問を頂いた時にはできる限り相談に答えるようにしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域の方の質問に答えたり、ボランティアの方を紹介して頂いたり、アドバイスを頂いている。	感染症予防の観点から現在も対面会議を避けている。運営推進会議の報告書を地域住民3名と民生委員1名に配布する際に意見を聴取し、地域情報の収集と、事業所内情報の開示を行っているが、意見が上がることはない。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢介護課や地域包括と連絡を取り合い、施設の状況や相談を行っている。感染症の発生時なども協力して頂いている。	運営推進会議の報告書を廿日市市役所大野支所へ持参し手渡す際に、事業所内の様子を報告し、支所から物資の支援を得ることや、高齢介護課による感染拡大を予防するための助言や指導を受ける機会があり、生活課の訪問面談等で関わりながら協力している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>委員会を設置し、定期的に話し合いを行っている。やむを得ない場合の同意書にご家族への確認を記入して頂き、報告している。</p>	<p>身体拘束に関する委員会は3ヶ月に1度の頻度で定期開催しており、身体拘束に係る同意書の作成を議題として検討している。事業所ではチェックリストを活用して職員各自のケアを振り返る機会と、事業所が各職員の身体拘束への認識を把握する取り組みを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の委員会を設置し検討会議を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度などを学ぶ機会はないが、制度が必要な場合はインターネットや高齢介護課などからの情報で活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に一人ひとり、それぞれの困りごとや希望を聞き、その人に合ったサービスの提案を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族や本人には入居時にどのような生活を望んでいるか聞き記録、計画を立てている。日々の意見や要望は直接話したり連絡を取り合い決めるようにしている。</p>	<p>利用者から日々の生活の中で、自由に表出される意見を、職員が受け取っている。主に食に関する要望が多く聞かれ、嗜好品の購入などで意見を取り入れている。面会のため訪問した家族から利用者を外出や外食に連れ出したいとの要望に応えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2か月に1度スタッフ全員による会議を行い、話し合いの機会を設けるようにし、記録し、回覧している。	定期開催されるスタッフ会議は、代表者が各回出席しており、開催時間の設定を19時にすることで職員の出席率を向上させる工夫を行っている。職員の意見から手すりやカーテンを購入した実績がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	契約時に勤務の仕方の希望を聞き、なるべく希望通りの勤務が出来るよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部が行う研修などを紹介し、参加者の申し込みを行っている。スタッフ会議時にテーマ別で施設内研修を行っているが最近はあまり出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	提携医療機関による研修をして頂いたり、スタッフにアドバイスをもらっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人や、ご家族に希望や好きなことなどを聞き、本人が望む穏やかな生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時にご家族と本人の希望を聞き、できる限り面会などご家族の要望に添えるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご家族、主治医、スタッフで話し合いの場を設け、どのような支援が必要か多方面から話し合っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>掃除や洗濯物たたみ等、利用者様にできる事はスタッフが一緒になって行うようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居時にご家族の希望や面会の希望を聞き、できる限り面会の機会を作ったり、家族との食事会や、外泊の支援を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの場所などに行くことは難しいが、ご兄弟や、友人などの面会の希望があれば、出来る限りたくさんの機会を作れるよう支援している。</p>	<p>面会は曜日と時間を事業所で定め、約30分の時間制限を設け、玄関で対面で実施している。親戚が多く集まる日に自宅へ帰り親族と過ごす利用者や、自宅で1泊する利用者と家族が困らないように、必要な物品準備や福祉用具を用意して支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の性格や過ごし方を把握し、定期的に席替えを行うなどして利用者様同士がよい人間関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設に移られた方には、定期的に連絡を取ることにはないが、その後どう過ごされているか聞いたり、面会に行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日中は利用者様全員でリビングで過ごして頂いているが、横になっていただいたり、希望があれば居室で過ごして頂くこともある。意思の確認が困難な場合はスタッフで話し合いを行っている。	日常的に、利用者職員が関わる時間を確保した勤務体制を整えていることから、職員は利用者の意向を個別に把握している。意向の表出が難しい利用者の場合は、職員が利用者の様子に変化に気づき、考えられる方法を試行した結果を職員同士で共有し、より良い支援の方法を協議している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりのファイルで利用者様の情報が分かるようにし、スタッフ全員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの有する力によって、運動したり、歌を歌って頂いたり、横になって頂いたり一日の過ごし方を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望を聞き、家族の希望を聞き、本人が楽しく過ごせるために出来る事を話し合っている。</p>	<p>利用開始時に利用者の暮らし方の希望を明確にして記録している。利用者一人ひとりの日々の過ごし方や、楽しく過ごすためのレクリエーションを取り入れた介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケア記録に日々の様子を記録し、気付いたことなどを共有している。薬などの変更があった場合は共有の連絡ノートに記入し記名するようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの症状や必要なサービスによって主治医に相談し利用できるサービスがあれば話し合っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>以前は地域の食堂やボランティアに来て頂いたり外出や外部の人と交流があったが、コロナが流行して行っていない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にご家族も主治医と話しをして頂き、ご家族の希望を聞き対応している。医療に関してのことで確認がある場合は直接先生と話しをしてもらっている。</p>	<p>利用説明をする際に、これまでのかかりつけ医を継続受診する場合と、協力医療機関へ変更する場合の相違を説明し、利用者、家族が希望した医師の診察を受けられるように支援している。内科医の紹介により通院が必要な場合は職員が同行し、医療機関へ情報提供を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設の職員に看護職員はいないが、主治医に日頃の様子や変化を報告し訪問看護と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関の主治医と密に連絡を取り合い利用者の状態を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人や家族の希望を聞き、記録に残して主治医とも話しをして頂き支援している。	利用契約時に看取り支援確認書の説明を行い、書面による同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた際は、状況を段階的に報告しており、常に医師と家族、事業所が最新の情報を共有し支援方法を修正している。行政やサポートセンター、地域の開業医と協力連携して支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所に緊急時の手順を掲示しスタッフにも配布し説明をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の消防訓練を行い、通報、避難の手順の確認を行っているが地域や他の施設との連携が取れていない。	通報、避難、消火訓練は利用者も参加し、避難時間の計測や水消火器の操作方法も行っている。以前地域で役員をしていた住民から、有事の際に協力を依頼できる口約を取り付けている。台所の吊戸棚内に、水と食品を約3日分備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフは一人ひとりのの性格や生活歴を理解し、その人にあった声掛けや対応をするように努めている。	利用者への言葉遣いについて、上から目線の命令形や、相手を傷つける言葉遣いになっていないか、掲示物により職員自身が振り返り、行動変容を促す動機づけを行っている。職員は日々の関わりの中で利用者を深く理解し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	会話の中で本人の思いや希望を聞き、出来る限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日中はスタッフの目の届くりビングで過ごしてもらっているが、一人ひとりの過ごし方に合わせて、横になって頂いたり希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人が持っている洋服などから好みを把握し、着たいものがある方には選んでもらい、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。家族の同意をもらい、定期的に散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の内容は業者で決まっているが、朝食やおやつを手作りするなどして工夫している。一緒に準備が出来る利用者様は少ないがテーブルを拭いたり、お皿を下げてもらったりしている。	朝食は週に2回パンの日を設け、おやつやたこ焼きを職員が調理したり、誕生日や行事にはちらし寿司を作る等、利用者の楽しみとなるように工夫をしている。菜園には苺、ブルーベリー、夏野菜を育て、採りたての旬を味わい季節を感じられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の量や水分量を記録し1日の全員の摂取量が分かるよう記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアは出来ていないが，朝と夕に口腔ケアを行っている。自分で難しい方は協力歯科に口腔ケアをお願いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排便表に記録をしながら一人ひとりの排便パターンに合わせて，定期的にトイレ誘導を行っている。</p>	<p>排泄は食事と水分の摂取量と合わせて記録している。利用者一人ひとりの持っている力を維持するために，職員が定時に排泄誘導を行いパットの使用量を減らす工夫をしている。利用者の様子に変化があった場合に職員が気付き早めにトイレに誘導することで失敗を減らす取り組みを行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの便秘時の対応を作成しスタッフ全員で共有している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は決まっているが，希望があれば支援している。</p>	<p>入浴は週2回を基本としており，利用者が入浴日を記憶し，習慣として定着していることから，追加入浴や時間変更の要望はない。浴槽に入り湯に浸かる事を楽しみとしている利用者が多いため，可能な限り介助で湯に浸かれるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中は利用者様はリビングで過ごされるため、希望や習慣に合わせて横になって頂いている。居室の気温やベットのマットなど一人ひとりに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様全員に往診の主治医がおり、主治医と相談し支援している。薬の説明などはスタッフ用の連絡ノートを共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日中は、一人ひとりが得意なことや、その日やりたいことなどを提案し、過ごして頂いている。レクなどはなるべくみんなが興味を持って楽しく行えるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナや感染症があり、外出出来る事が少なくなったが、初詣やお花見など少しでも外に出る機会があれば支援している。ご家族の希望があれば外出や食事に行く時など支援を行っている。	玄関先で花を見たり、敷地内の外椅子に座り外気浴や、個別に散歩に出ている。初詣や、利用者全員で桜の花見に行くなど、車いすの利用者も外出する機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は難しいため、利用者様のお金はお預かりしていない。欲しいものや好きな食べ物などは、スタッフが聞き、購入したりご家族にお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の希望があれば支援しているが、聞こえづらい利用者様もいるため、請求書と一緒に手紙やメッセージカードを書いて頂いたり、ご家族に手紙を書いて頂いたりしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中は利用者様はリビングで過ごされるため、希望や習慣に合わせて横になって頂いている。居室の気温やベットのマットなど一人ひとりに合わせて対応している。	リビングは利用者が一日の多くの時間を過ごすため、座席の配置は問題が発生した場合に即座に変更している。職員と利用者が季節を話題にしながら制作したポスターや立体の展示物などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様の過ごし方や好きな話などを把握し気の合う人との席の配置に変更したり、居心地の良い空間に出来るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される際、馴染みの物や写真などを持ってきてもらい部屋に飾るなどしているが、誤飲や物が気になって危険な場合は話し合った配置で行っている。	使い慣れたものや、馴染みのあるものよりも、最近はテレビを居室に置きたい要望が増えている。利用者の心身状態に応じてベッドの位置の変更を検討したり、自費レンタルによる手すりの導入を行うなど環境を整備する視点からも支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活は難しい利用者様が多いが、得意な作業をお願いして一緒に行ったりやりたいことがあれば支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあおば

作成日 令和6年1月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	転倒しない。	骨折しない。	・廊下に物を置かない。 ・見守りをする。 ・居室にセンサーを設置する。	1年
2	17	入浴。	さっぱりした気持ちになる。	・洗身、洗髪を介助する。 ・不安の無い様誘導する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。